

【二次抄録】(第7回日本禁煙科学会学術総会 優秀演題賞受賞)

胃がん発生率と喫煙との関連について

立花 優¹⁾ 久保田 憲宏¹⁾ 澤口 純也¹⁾ 葛岡 直純¹⁾ 牛間木 政志¹⁾ 松谷 基広¹⁾ 藤原 幸治¹⁾ 小山 富子¹⁾

要 旨：一日人間ドックを経年受診している50歳から69歳の男性4,081人について、胃がん発生と喫煙との関連を検討した。この集団における胃がん発生率は、0.21/100人年で、60～64歳群にピークが認められ0.35/100人年であった。喫煙群の胃がん発生率は、非喫煙群、禁煙群より高率で、喫煙群の60～64歳群では0.58/100人年と最も高率であった。また、喫煙指数(一日当たりの喫煙本数×喫煙年数)が高いほど胃がん発生率が高い傾向が認められ、胃がん発生に喫煙が影響している事が示唆された。

キーワード：喫煙、胃がん発生率、人年法

【目 的】

喫煙者は非喫煙者と比較して胃がんの発生リスクが増加するという報告がある¹⁾。今回、一日人間ドックを経年受診している男性受診者で発見された胃がん症例について、喫煙との関連を検討したので報告する。

【対象と方法】

当協会のH17年度一日人間ドック胃部X線検査受診者で、H22年3月までに2回以上の受診履歴が有るH17年度受診時年齢50歳から69歳の男性4,081人を対象とした。喫煙歴の問診により、非喫煙群(1,308人)・禁煙群(1,428人)・喫煙群(1,345人)に群別し、年齢階級別にそれぞれの胃がん発生率を人年法を用いて比較した。最終受診日までを観察年数とし、胃がん症例は胃がんが発見された受診日を最終観察日とした。喫煙歴群別に見た年齢階級別対象者数を表1に示した。

また、胃がん発生に関与する要因である胃粘膜萎縮について、対象者4,081人中H18年度に胃部X線検査を再受診しその画像が保存されていた2,547人について、安田らの分類²⁾を用いて胃部X線画像の胃体中部後壁の胃小区模様により胃粘膜萎縮度を再評価し、喫煙歴群別に粘膜萎縮所見率を算出した。

【結 果】

対象者4,081人中、H18年度に胃部X線検査を受診した2,547人について、胃部X線画像から胃粘膜萎縮度を0～3に4分類しその出現率を非喫煙群・禁煙群・喫煙群別に表2に示した。

2,547人中、胃粘膜萎縮度「0」は23.8%(605人/2,547人)、萎縮度「1」は26.3%(671人/2,547人)、萎縮度「2」は、23.6%(600人/2,547人)、萎縮度「3」は、26.3%(671人/2,547人)であった。

喫煙歴群別に、萎縮度「0」、「1」、「2」、「3」の割合を見ると、非喫煙群、禁煙群、喫煙群で有意な差は認められなかった。

表1 喫煙歴群別に見た年齢階級別対象者数

H17年度 受診時年齢	喫煙歴群			合計
	非喫煙	禁煙	喫煙	
50～54歳	280	421	518	1,219
55～59歳	352	448	488	1,288
60～64歳	339	288	209	836
65～69歳	337	271	130	738
合計	1,308	1,428	1,345	4,081

1) 公益財団法人 岩手県予防医学協会

責任者連絡先：立花 優
 岩手県盛岡市永井14-42 (〒020-0834)
 公益財団法人 岩手県予防医学協会
 TEL:019-638-7185

表2 喫煙歴群別胃部X線画像による胃粘膜萎縮度別割合

喫煙状況		非喫煙	禁煙	喫煙	合計	
胃粘膜萎縮度	0	n	176	229	200	605
		%	21.5%	24.1%	25.7%	23.8%
	1	n	205	240	226	671
		%	25.0%	25.3%	29.0%	26.3%
	2	n	216	218	166	600
		%	26.4%	22.9%	21.3%	23.6%
	3	n	222	263	186	671
		%	27.1%	27.7%	23.9%	26.3%
	合計		819	950	778	2,547

対象者4,081人中、経過観察中に胃がんが発生したのは29人で人年法による胃がん発生率は全体で13,864人年中29人(0.21/100人年)であった。年齢階級別に人年法による胃がん発生率を見ると50~54歳群は0.07/100人年、55~59歳群は0.23/100人年、60~64歳群は0.35/100人年、65~69歳群は0.24/100人年であった。胃がん発生率は60~64歳群にピークが認められた。(表3)

喫煙歴による胃がん発生率を見ると、非喫煙群の胃がん発生率は4,457人年中6人(0.13/100人年)、禁煙群は4,935人年中9人(0.18/100人年)、喫煙群は4,473人年中14人(0.31/100人年)で、非喫煙群、禁煙群、喫煙群の順で胃がん発生率が高かった。喫煙群の胃がん発生率は非喫煙群の2.4倍であった。

更に喫煙歴による群別、並びに年齢階級別に胃がん発生率をみると、各年齢階級においても、非喫煙群、禁煙群、喫煙群の順で胃がん発生率が高かった。喫煙群の60~64歳群では0.58/100人年と最も高い値を示した。また、50~54歳群の非喫煙群、並びに禁煙群では胃がん発生率は0であったが、喫煙群では胃がん発生率0.17/100人年と若年から胃がん発生が認められた。

次に一日当たりの喫煙本数×喫煙年数から算出した喫煙指数別に胃がん発生率を見た(表4)。喫煙指数0である非喫煙群は0.13/100人年、喫煙指数60未満群は0.21/100人年、喫煙指数600以上群は0.28/100人年と、喫煙指数が高いほど胃がん発生率が高い傾向が認められた。

【まとめと考察】

一日人間ドックを経年受診している初回受診時(H17年度)年齢50歳から69歳の男性4,081人について、非喫煙群、禁煙群、喫煙群別に100人年当たりの胃がん発生率を見た。

胃がんはヘリコバクター・ピロリの感染とそれに伴う胃粘膜萎縮(腸上皮化生)が危険因子としてあげられている。

今回対象とした4,081人について、ヘリコバクター・ピロリの感染に関する情報が得られていないが、部分的な検証ではあるものの、H18年度の胃部X線画像から胃粘膜萎縮を見たところ萎縮度1~3を示したのは、全体で76.2%で

表3 喫煙歴群別に見た年齢階級別100人年当たり胃がん発生率

H17年度 受診時年齢	非喫煙			禁煙			喫煙			合計		
	対象者人年	胃がん	発生率	対象者人年	胃がん	発生率	対象者人年	胃がん	発生率	対象者人年	胃がん	発生率
50~54	972	0	0.00	1,462	0	0.00	1,745	3	0.17	4,178	3	0.07
55~59	1,186	2	0.17	1,547	3	0.19	1,598	5	0.31	4,331	10	0.23
60~64	1,153	3	0.26	1,007	3	0.30	696	4	0.58	2,855	10	0.35
65~69	1,147	1	0.09	919	3	0.33	434	2	0.46	2,500	6	0.24
合計	4,457	6	0.13	4,935	9	0.18	4,473	14	0.31	13,864	29	0.21

表4 喫煙指数別 100人年当たり胃がん発生率

H17年度 受診時年齢	非喫煙			喫煙指数600未満			喫煙指数600以上			合計		
	対象者人年	胃がん	発生率	対象者人年	胃がん	発生率	対象者人年	胃がん	発生率	対象者人年	胃がん	発生率
合計	4,457	6	0.13	4,385	9	0.21	5,022	14	0.28	13,864	29	0.21

あった。非喫煙群、禁煙群、喫煙群別にそれぞれの萎縮度別の割合を算出したところ、各群に差は認められなかったことから、非喫煙群、禁煙群、喫煙群の胃がん発生について胃粘膜萎縮の影響に差が無いものと推測された。

この集団における胃がん発生率は全体で100人年当たり0.21であり、ピークは60～64歳群で、100人年当たり0.35であった。

喫煙歴群別に胃がん発生率を見ると、非喫煙群は100人年当たり0.13、禁煙群は100人年当たり0.18、喫煙群は100人年当たり0.31と喫煙者の胃がん発生率は非喫煙者に比べ2.4倍高率であった。喫煙を続ける60～64歳群の胃がん発生率が最も高く100人年あたり0.58であった。また喫煙者では、非喫煙者や禁煙者で発がん者がいなかった50～54歳の若年者でも胃がん発がん者が認められた。

更に喫煙指数を見ると、喫煙指数が高いほど胃がん発生率が高い傾向が認められた。

これらの事から、50～69歳の男性の胃がん発生に喫煙が影響している事が示唆された。

【参考文献】

- 1) 喫煙と胃がん発症リスクとの関連について Yayoi Koizumi Int. J. Cancer:112, 1049-1055(2004)
- 2) 胃X線検査による胃がん危険度評価についての検討 JSGCS雑誌 2010 ; 48 : 344-354

【週刊タバコの正体】

2013/03 和歌山工業高校 奥田恭久

■Vol. 24

- (No. 332) 第8話 時代の先頭
--「タバコを吸わない事が当たり前」の時代になりつつ? ある
- (No. 333) 第9話 タバコ消費と肺がん
--タバコの影響は遅れて現れる事も知っておいてほしい
- (No. 334) 第10話 来るのがわかっていたら
--3.11東日本大震災から2年 回避する手立て...
- (No. 335) 第11話 PM2.5
--中国からのPM2.5より飲食店内のPM2.5の方が...

URL:http://www.jascs.jp/truth_of_tobacco/truth_of_tobacco_2011.html

※週刊タバコの正体は日本禁煙学会のHPでご覧下さい。
※一話ごとにpdfファイルで閲覧・ダウンロードが可能です。
※HPへのアクセスには右のQRコードが利用できます。



毎週火曜日発行



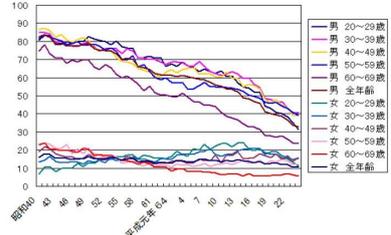
2013/1-3

Serial number 332

週刊 **タバコの正体**

第8話

「平成24年全国たばこ喫煙者率調査」(JT 全国喫煙者率調査)によると、平均喫煙率は男性が32.7%、女性が10.4%だったそうです。この調査は40年以上前から行われているのですが、下のグラフを見れば、喫煙率の急降下ぶりは一目瞭然です。



年度	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	全年齢
24	男 31.5	40.4	39.0	39.0	28.5	32.7
	女 11.4	15.4	15.9	12.2	5.5	10.4

そして、年齢別の詳しい喫煙率を示した上の表を見て下さい。30～40歳代よりも20歳代の方が低いのがわかりますよね。つまり若い世代の喫煙者が減っているのです。この傾向は今後さらに増すでしょう。なぜなら、君たちのようにタバコの有害性の教育を受けた若者が増えているからです。

このままだと、「タバコを吸わないことが当たり前」の時代が来るのもそう遠くない気がします。すでに和工においては、ほとんどの生徒が「一生タバコは吸わない」と考えているのですからね。そう思うと君たちは時代の先頭に立っているのかも知れません。

産業デザイン科 奥田 恭久



In WAKO Since 2005